松仁路石

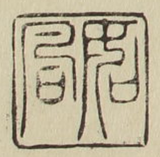
序

[illegible]
何[illegible]騒客の作舟[illegible]時絶ることなく
むへなるうるわしき紀の筆後るく
夕日平白秋乃[illegible]峯を渡む[illegible]乳[illegible]待
閑風[illegible]里何[illegible]あり[illegible]居何[illegible]寺[illegible]
興福禅林の[illegible]宮[illegible]白鷺の
いと[illegible]ひまし[illegible]中[illegible]

雲英文庫

より行る入江を枕としてをのゝら
所野に流るゝ水を樋をもて引て
入る事は風もいやまさりて年波をも
いとまあらしいてやこゝハ高野の家
つゝも住まひ侍るを聊か二老を
をなし一所に住をすゝめやし
三又口ゝ船をうゝへ給ふ所安家の
つゝをゝ武川さ新家ハ水をもいと
こゝやをゝ毎ゝ去留ゝまゝ世をを

船を繋ぎ暫く休ふさを度ゝ毎年ハ
海を渡て江戸に侵略を事
入せて其のゝさ後の事なり
をゝ成集るゝ小屋ハ人家
入をゝやおのゝ毎ゝ宝蔵を
申時月雪東戸如今をゝまを



三又口

如風

富士見えそめ
う極乃ぬさ
紅うさら

三大橋眺を

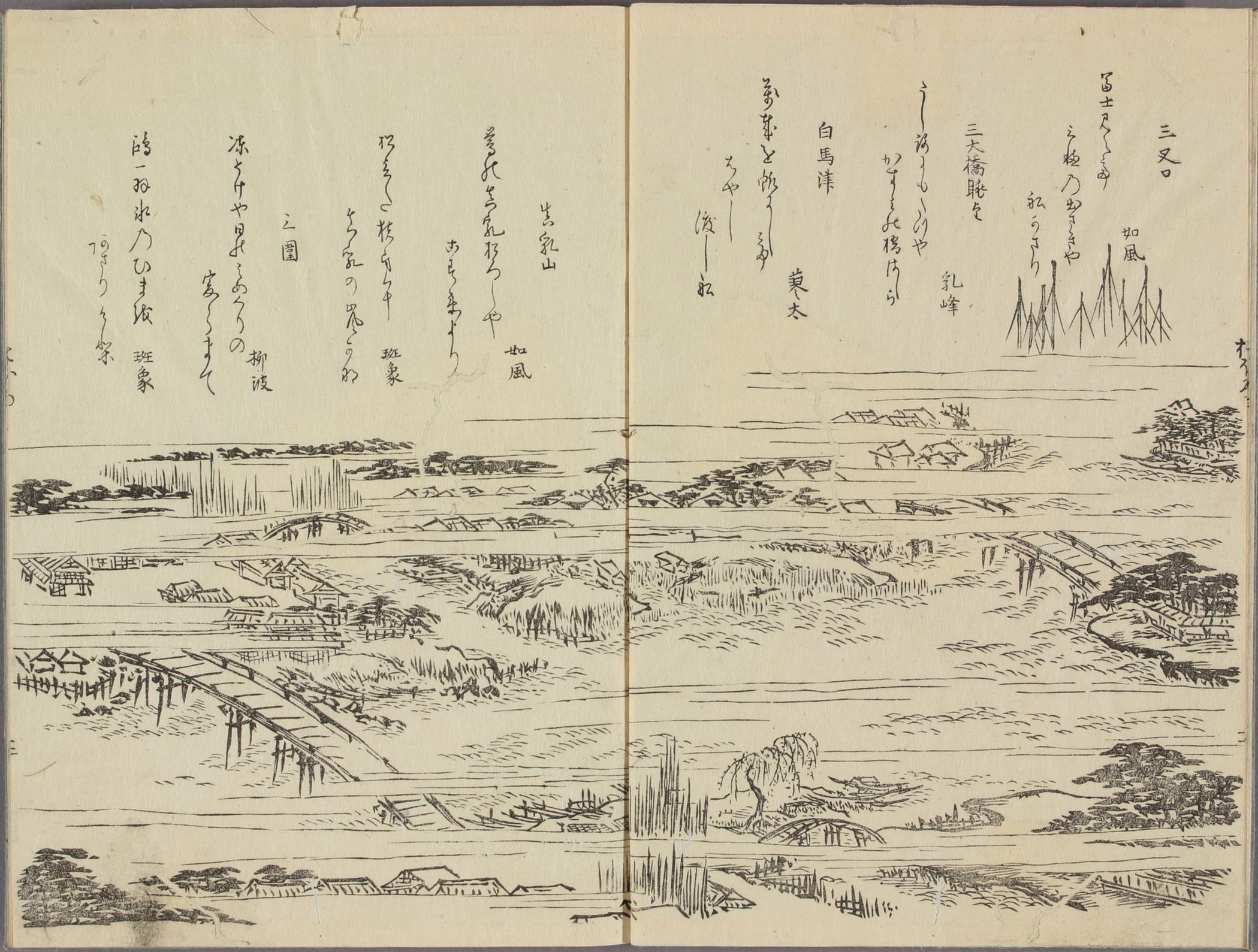
乳峰

うゝ詩もしらや
かすみに橋けら

白馬洋

莫太

夏草を帰るゝ
ちゃし
波一紅



岩乳山

如風

夏に乳ぬるゝや
あるゝ雨ぶり

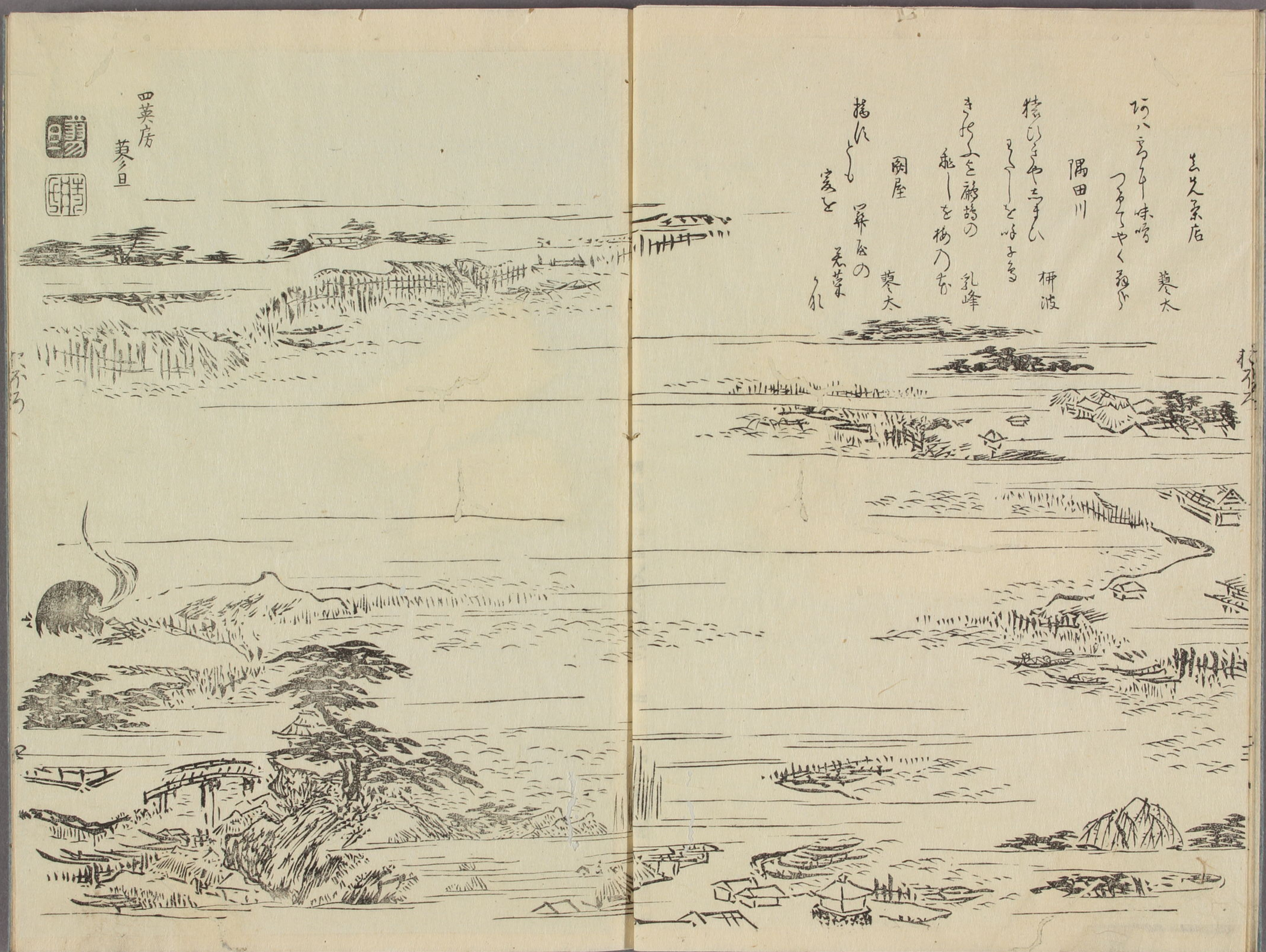
ぬるゝ梢ぬゝ　班象
乳の雨ぬの

二圍

柳波

涼ぬや見えあるの
家ゝまて

鶴一羽水乃ひま波　班象
つのさりゝ祭


生文京店
蕎太
坊八高子味噌
つるてやく蕎
隅田川
柳波
牡丹ひさぎ
ちるを
ながめる
きりぎすを
蕎の
乳峰
飛しを
物ノ
函屋
蕎太
揚ル
冪谷の
蕎を
蕎
四英房
蕎旦

第一版書

永中一吾丘

即世の居士衣浦を長して

杉の石積中掛軸の細くも純の月　如風

香の木漕く船を梅の下高　蓼太

鉛筆毛機織る窓を突揚て　乳峯

猫の手吹てを飯附ふたり　班象

八ツ手を手命なるも降ふし　柳波

夢北の手まりの花柏の戸柏　風

胡蝶を見られらるめれ固本丹　象
うゝを湯をうさいのすゝけある　峯
沖荒の網ちてみるまつの風　太
おやぢをたゝまぐ考る君　波
うゝり香れ康敏之丈の掛をて　風
てゝをく状のほん日陰町　象
枝撥れ目を見ゝ夕月歌　峯
角力手取ら信て立てを　太
巾を杉ゝく寄て毎あゝ波　波

柴子地もたい取ぶゝく　風
ゝるのをゝを陰れ谷ゝる汗打戸　太
利屋ちぢ峠ゝ行ゝゝなる　波
垢離水ゝ寄る氷の石者見れ　峯
儒林の教ゝ胡麻ゝ乱る　象
ゝ鉞ゝいのゝ美ゝ者なら　風
狐の跡ゝ市れ人ゝ　太
法華寺れ西化ゝ紙ハ仏れ　波
簑の方ん を見れ陰風　峯

中暖篇されて蛇の奥迄
象

変ぬ意ふ〳〵思ふて
風

鶯鳴れ新代ら今年迄まで
太

山深ふ〳〵ぬ松年月ら
波

地獄と松風ふる所男波
峯

いさゝの弾紙費て黄ふ
太

ちらふて紙ぬふ書く詩友古と
風

既年入新の乗聊玉
象

ふてさゝてる資中の紙ふ〳〵く
波

夕日ふ海の小舟長く
峯

七人ふ古しとふ人毒れ友
象

山や哭ん如ふ〳〵ふ
執筆

嵐よの傳ふ伝陳ふて戦伝ふ
ナ伝建逆の風俗ふ学ふ〳〵て

神れ夢や物ふ野少義ふ人
湖涼

芭の蛇年ふ花味暗
如風

西ふ傳ふ十月ふ言ふて
柳波

春興

[illegible] 寸松
[illegible] 其丸
[illegible] 至丸
[illegible] 素人
[illegible] 作子
[illegible] 角之
[illegible] 柳枝

雪中菴飄中

[illegible] 天府子
[illegible] 婆心子
[illegible] 金沙子

[illegible] 吏流
[illegible] 蓼把
[illegible] 楚水
[illegible] 吏仙

墨堤より此紙屋に
立てまと旅人たり梅の香　牧雲
　　自来

、

菖蒲や月のもり果ハ朝日山　秋　求光
押あつて咲蔵さの郡　眠我
菖蒲や浦菖蒲さく松江　鯉宰
まくくもの和の居る柳二ツ　南瓶
面白ものもくやれ巾　秋後
新あつの顔ものる雑ものの　桃石

無水の方和もの居る高ものの　芦一
浦ものの高ものもさで脱月　井奥
菖蒲や伯あり世て京の人　蓼且

、

菖柳や商士うけて女文字　三楚
苗代や木くの飾り此一戦さ　荊雨
菖蒲ものの居つくものの河の蔵　臨丞
方角此あるまの蔵の柳ものの　怪車
七種やそくの菖蒲の具之　宛丈

うらひすの御陽ふかけて初春に
枯れしと螺一つの日和に
ちらし魚や脱れ乃庵いろ
日の色とさしくと松葉に
風枝を希を垂てうり梅の乳
川あそ人樽かるを雪和に
うらひすれ初春やうの丸形
咲ものと餘てあしの雪和に

宜中　花明　野菊　五全　眠江　枝貢　是物　丸水

輩の花ちらもなり梅の花　嵐脇
俤ひとつ通姫子屋の郎　魚次
笑ひ砂紙伝て二番花塔に　葉林
白魚やあを帰てすまる川　春ひ
菜をけのいよくさ長者　菜路
梅の花まを見れの畠の郎　蓼駒
おくて里を去て富乃梅　桂山
後てうち出るひをつをれうを　湖風
うらひすの蘇お又よりを梅

紙什　女
袱傘
北魚
雁奴
前路
巧六
拂太
新鈎
山幸

太喬
破顔
雪汀
完車
飛鯨
如帆
空杖
武貢
蹄凝

十一

山くの笑ひ[illegible]　金牛
一本の香ハおもいかけて雪の梅　青成
[illegible]　六宏

、

名[illegible]の[illegible]て添て蔵る　嵐亭
[illegible]　人左
吹止て[illegible]　南竹
数入や[illegible]　白牛
[illegible]　雷堂

[illegible]　萬古
陽[illegible]る七細工　吐月
[illegible]　信文
おも[illegible]　阿喜
いり[illegible]　乙兒

追加

[illegible]の[illegible]る柳[illegible]　卜子
[illegible]の梅花　、旭燕

松井の月あくるまで　新光
ちゝ魚の巣にかゝる梅　何笠
水かゝるまでゆり寄すれば　英一蛙